ロッキー通信No.15

「プライオン　思いを力に！」

学校教育目標：「豊かに育つ生徒」
～「挑戦」と「創造」～
校　　訓：「求学・親和・創造」

R7.8.9（土）発行　文責　校長　六山　和弘

8月9日、今日は「県民祈りの日」

令和7年8月9日を迎えるにあたって

「ちちをかえせ　ははをかえせ　としよりをかえせ　こどもをかえせ　わたしをかえせ　わたしにつながるにんげんをかえせ　にんげんの　にんげんのよのあるかぎり　くずれぬへいわを　へいわをかえせ」これは、広島で被爆され、のちに平和運動のリーダーとなられた詩人、峠三吉さんの詩です。

第2次世界大戦末期の1945年8月6日に広島に、そして、9日には長崎に、世界で初めて原子爆弾が投下され、一瞬のうちに広島では約20万人、長崎では約10万人が亡くなりました。そして、8月15日には日本が無条件降伏して戦争が終わりました。この戦争で、日本全体では約310万人の尊い命が失われました。

この戦争が終わって、今年で80年という大きな節目を迎えます。

また、68年間に渡り世界に核兵器廃絶を訴え続けてきた「日本原水爆被害者団体協議会」がノーベル平和賞を受賞して初のこの日を迎えています。今後、私たちは平和への取組をどのようにしていけばよいのか、という岐路に立たされているのだと感じています。

実際に戦争や被爆体験のある人が次のようなことを仰います。「本当の平和の大切さは、実際に平和をなくした者でなければわからない。」と・・・。実に重みのある言葉ですし、そうなのかもしれません。

しかし、実際に戦争を体験したことのない私たちにも、その悲惨さを知り、真の平和を願ってできることがあるはずですし、求め続けていかなければならないのです。そのような中に、6月11日付長崎新聞「記者の目」という記事に目が留まりましたので紹介します。「中学生の行動　私への警告」という題で、5月に長崎市で開催された、物語を覚えてストーリーテリングで語り聞かせる「おはなし魔女の会」に最年少で参加し初舞台を経験した中学1年生女子の取材での思いを綴ったものでした。以下、記事を抜粋します。

> 今回の講演は「平和」がテーマ。終了後に松川さんと話す中で、互いに市内の学校で平和教育を受けたことがあると分かった。市内の子どもたちにとって、被爆体験講話や被爆遺構巡りはおなじみの授業。自分の学生時代を思い返すと、そのような記憶がぼんやりと浮かび上がった。松川さんは初めての平和教育を鮮明に覚えているという。物語好きの少女が中学生になり、物語の面白さや日常に溶け込む平和を知ってもらおうとストーリーテリングを始めた。「自分だからできることをしたい」。そう話す松川さんが初舞台で披露したのも、そんな行動力を示すような作品だった。彼女の姿勢に頭が下がる反面、当時の被爆者や先生方の懸命な教えをぼんやりとしか思い出せない自分の至らなさを痛感した。取材というまたとない機会がある中で「被爆者なき時代」が一段と現実味を帯びる。これは私に向けられた警告だ。

皆さんは、この記事に共感する部分がありますか？

これまでの平和は、誰かが動くことで与えてもらっていたものなのかもしれない。これからの平和は、私たち自信が考え、動くことでしか維持することができないのかもしれない。人任せの平和ではなく、先程の記事の中学生のように、「私にできること」を考えてみてほしい。そんな平和集会をつくっていってほしい。
そんなことを考えた今年のこの日です。そしてその取組が、やがて「相手の人権を傷つけたり人の嫌がることをしないで、お互いを認め合い、よりよい人間関係を築くこと」の土台を形成し、「生徒全員が、今日が楽しくて、明日が待ち遠しいと感じる学校づくり」につながっていくことを心から信じ、祈念して、本日のあいさつとします。

令和7年8月9日　校長　六山　和弘より

よく頑張った！！　県中総体・吹奏楽コンクール報告

○軟式野球競技
1回戦：西中2－1有明
2回戦：西中3－4郷ノ浦

○女子バドミントン競技
団体戦：西中2－1小値賀
西中0－3中里
岩崎・山下ペア　2回戦敗退

○空手道競技
鬼崎羅衣姫　惜敗
吉田　雄大　惜敗

○ソフトテニス競技
濵田・福山ペア　2回戦敗退

○陸上競技
土井　柚希　2年800m　3位
池田　篤人　2年100m　4位

○水泳競技
亀渕　瑛太郎　200m自由形
2位　九州大会へ
江口　颯馬　100mバタフライ
1位　九州大会へ
200mバタフライ
1位　九州大会へ
亀渕　瑛太郎　400m自由形
3位

○吹奏楽部　県央大会　銀賞

選手たちの頑張りに感謝します！！

君こそ真のヒーローだ！！

7月23日（水）、次のような電話が学校にありました。
1年生か2年生の山田くんが古町6区の路上に倒れていたおじいさんに声をかけ話しをしてくれて、近所の家に助けを求めて救急車を呼んでくれました。
この日の夕方には、倒れていたおじいさんのご家族からも「無事に助かりました」とお礼の電話がありました。後日、そのヒーローが判明しました。
1年5組の卓球部：山田　悠翔さんです。部活へ向かう途中の出来事だったとか。
素晴らしい行動力に感謝します。とても素敵ですね。ありがとう。

夏休みも今日から折り返し！！

さらに充実した日々を送るためにも、終業式での仲間の言葉を振り返ってみましょう。

「１学期を振り返って」

3年１組　伊東　夢颯

４月７日、僕たち3年生にとって西大村中学校での最後の１年が始まりました。そして、時はあっという間に過ぎ、１学期も今日で終わりです。そんな楽しく充実した１学期を振り返り、反省を述べたいと思います。

１つ目は、行事面です。１学期の行われた行事は、体育大会、中総体などをはじめ、さまざまな行事がありました。3年生最後の体育大会では、「大村一の体育大会にする」ことを目標に3年生がリーダーとして活躍しました。私は赤組の応援団員になり、応援最優秀賞を目標にして、日々の練習をがんばりました。最初は、みんながついてきてくれるか不安でいっぱいでした。練習が始まってうまくいかないこともありましたが、赤組のみんながついてきてくれて本番は最高の演技を見せることができました。僕はこの素晴らしい経験で全員が協力することの大切さを知りました。僕ができることは限られていますが、みんなが協力すれば、自分が考えているもの以上の成果が出せることが分かりました。3年間の強い思いがつまった中総体では、キャプテンとしてがんばりました。１年間このチームをまとめあげるのは大変でしたが、みんなが支えてくれたおかげで、最後まで戦い抜くことができました。それでも、目標にしていた県大会に行くことはできませんでした。僕は、「もっと練習していればな」と後悔しました。この悔しい経験を無駄にしないように、さらに成長して次のステップに活かしたいです。

２つ目は、学習面についてです。3年生は、いよいよ高校受験です。毎日、充実した勉強をおこなっていますか？おそらく一部の人以外、まだ勉強がはかどっていないのではないでしょうか。僕も実際、受験生に見合うほどの勉強量ではないので、これからたくさん勉強していきたいです。

３つ目は、生活面についてです。3年生は元気なところはいいですが、元気があり余り、うるさくなっています。これから１・２年生のお手本にならないといけないと思います。ところで、3年生だけでなく、みなさんはあいさつや返事はできていますか？僕は、毎朝3年生の下駄箱前に立ち「give me five 運動」に参加してあいさつをしています。しかし僕は、授業中の返事があまりできていません。みなさんも、あいさつ・返事があまりできていない時があるので、2学期には、あいさつ・返事を意識していきましょう。

１学期は今日で終わり、明日から長い夏休みに入ります。１・2年生は部活と勉強を両立させ規則正しい生活を送りましょう。そして、3年生は夢の実現のために努力を惜しまずがんばりましょう。１学期の反省をしっかりして、夏休み中や2学期の目標を考え、ダラダラせずに残された限りある時間を大切に過ごして、2学期に元気に登校しましょう。

西中生の「思い」や「行動」がより多くの人たちに広がりました

西大村中学校

WEST Omura News Letter　2025 8

西大村中学校では、３年前から生徒会主体で「ひまわり計画」を実施しており、今年もたくさんのひまわりが開花しました。この活動が多方面に広まっており、今回長崎新聞から取り上げていただきました。これからもひまわりに負けないぐらい明るい西大村中学校であってほしいですね♪

西大村中　感謝伝えるヒマワリ栽培

地域住民に感謝を伝えようと、大村市松原二丁目の市立西大村中（六山和弘校長、520人）の全校生徒がヒマワリ約2千本を育てている。今年は保護司と連携し、「社会を明るくする運動」に彩りを添えた。子どもたちの思いやりが地域に笑顔を広げている。

16日夕、生徒らは校舎横の花壇に集合し、汗を拭いながら満開のヒマワリを収穫した。お世話になった人たちに贈るという。

同校にヒマワリが咲くのは2年目。「思いやりあふれる学校にしよう」と生徒会を中心に企画。今年も草むしり、畑作りを経て5月に種をまき、咲いたから順次収穫している。水やりは毎日ごとに当番を決め全学年が繰り返した。1年生の花壇に植えた苗は、学校好きで毎朝子どもたちの登校を見守っている地域住民に感謝の花束を手渡した。受け取った松坂十百合さん（91）は「本当にありがたい。私たちが元気をもらっている」と笑顔。地元の小学校や職場体験で関わった事業所、保護者らにも贈る。

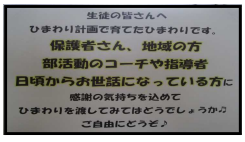
今年は初めて大村地区保護司会（田中まり子会長）が栽培に関わった。収穫したヒマワリは、13日に市内で開いた大村・東彼杵地区の「社会を明るくする運動」中学・高校生作文発表大会に来場者に配った。

犯罪や非行を防ぎ、立ち直りを支えるとの目的の同大会。7年ぶり前から地域の保護司がヒマワリを準備し参加者に手渡してきた。今年は学校側が申し出により連携が実現し、会場はヒマワリであふれた。

田中会長は「花を通じて人と人がつながる雰囲気を、子ども達と一緒に育て最高だった」と喜んだ。向井さんは「栽培の目的の一つは西中生が仲良く過ごすことなので、大会の意味に合っていた」と意義を説明。後輩たちにはヒマワリを通じ「もっと西中を広めてほしい」と期待を寄せた。（松尾誠太）

学校好きで毎朝子どもたちの登校を見守っている地域住民に感謝の花束を手渡す生徒ら＝大村市、西大村中

保護司と連携「社明運動」に彩り

地域住民に感謝の花束を手渡す生徒ら＝大村市、西大村中

長崎新聞
（2025．07．19　より）